牧　柾名（まき　まさな）

駿河台大学名誉教授　日本教育法学会名誉理事
元東京大学教育学部教授

「あの道へ戻るまい」との決意こそ

私は８８歳の老人いや青年（？）です。父は敗戦の年、８月末に亡くなりました。旧制高校卒業後は、「学びながら働く」生活を続けました。夜間高校の教師を１０年近くやり、その間に大学・大学院を修了し、大学に勤めました。

敗戦の３日後に、通学していた旧制中学の校長が言いました。「何年かかっても、この恨みを晴らそう」と。ところが、その２週間後の始業式では、この発言を撤回する始末。知識人なるものは、誰も声を挙げませんし、何も書かないのです。

ドイツと違い、政治犯が収容されていた監獄の扉を開ける市民もいません。勤務先の友人Ｋ君は、戦争で殺された人の数を数えて、およそ、２５００万人だと言いました。これほど多くの死者の裁きに、応えて生きるのかを、私たちは問われているわけです。

戦後の生活は惨憺たるものでした。食べる事に苦労しましたし、何よりも、いつも占領の言いなりに暮らすのは、奇妙でした。しかし、その中で、「やりたい事」に努力する夜学の生徒に脱帽します。

近年、軍国主義時代の到来かと思われることが続いています。政権を担う人々に、チラホラ怪しい言動がみられます。私は、「決してあの道へ戻ってはならない」と人々に訴えてきました。しかしまだ不十分です。『終戦直後と日本占領下の記録』という、この映像資料は、画期的なものです。多くの若者が御覧になるように願ってやみません。

２０１８年6月１７日